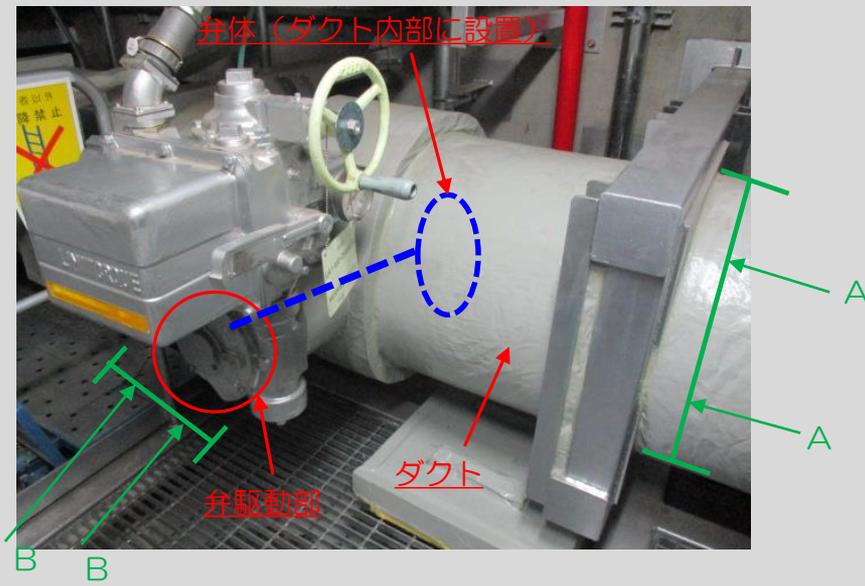


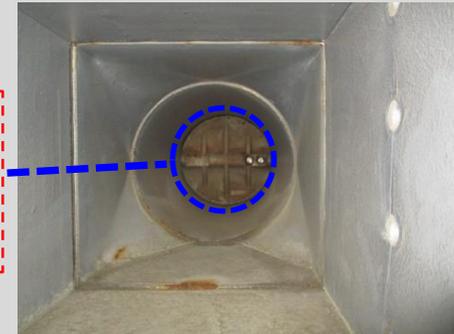
- 2021年10月4日、6号機中央制御室外気取入ダンパ※（A）の動作確認時、弁体が開動作の途中で停止し、全開にならないことを確認（2021年10月11日ホームページ不適合情報に掲載）
- 調査の結果、弁体が弁駆動部に対して間違った角度で組み込まれていることを確認
- 弁体が閉の状態の際には、中央制御室の気密性は確保されているため、原子炉安全上の問題はなく、10月9日に修理が完了
- 本事案については、「類似の事例が他の原子力発電所でのトラブル情報として報告されており、運転経験情報を適切に処置していれば、未然に防ぐことができたと考えられる」旨、第3四半期の原子力規制検査報告書（案）でご指摘いただいているところ
- 本事案を受け、既に手順書を見直す対策を実施するとともに、報告書（案）でご指摘いただいた点については、日々、他電力の運転経験情報を所内管理職にメールで周知する取り組みを開始するなど、水平展開を徹底している

※ 中央制御室外気取入ダンパ：放射性物質が大気中に放出される事故が発生した際、運転員が中央制御室に留まり運転管理を継続することを目的とし、中央制御室の空気を外気から隔離するためのもの。

中央制御室外気取入ダンパ（A）

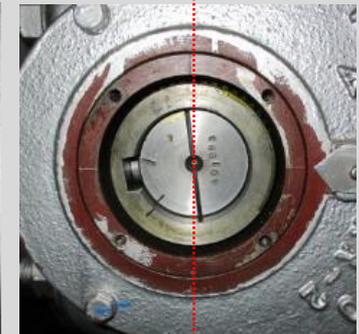


弁体（ダクト内部）



A-A矢視

弁駆動部



B-B矢視

正しい角度

- 実開度「0%」に対して、開度計の指示は「13%」であったが、中央制御室の気密性の判定基準が満足することを確認し、居住性に対する影響がないことを確認